

●新会員代表者紹介
ふくみや けんいち
福宮 賢一



明治大学学長

納谷廣美学事顧問の日本私立大学連盟副会長の任期満了に伴い、福宮賢一学長が会員代表者に就任した。

福宮学長は一九四六年東京都生まれ。一九六九年明治大学商学部卒業、一九七四年同大学院商学研究科博士課程を単位取得退学し、同年四月同大学商学部専任助手となった。その後、専任講師、専任助教授を経て、一九八八年に専任教授となり、現在に至っている。大学においては、これまで商学部二部主任、商学部教務主任、商学部長、評

議員、評議員会制度改革検討委員会委員長、社会連携機構長、広報センター長、副学長などを歴任し、二〇一二年四月に学長に就任した。

専門分野は、経済学・産業組織論。「グローバル市場における競争政策と規制緩和政策」を研究テーマに掲げている。主な論文として、「コンテスタビリティ理論」（小西唯雄編『産業組織論と競争政策』見洋書房、二〇〇〇年）、「グローバル経済下の産業政策と競争政策」（西野萬里・丸谷中史編『新しい経済政策論』有斐閣、二〇〇二年）が挙げられる。

趣味はテニスとスキー。人望が厚く、極めて温厚な人柄である。また、ものごとの本質をとらえ、深く見通す確かな判断力には定評がある。

学長就任後、国際化の推進並びに研究力の強化に努め、国際化に関する取り組みにおいて三件のG/P採択、また、研究面では「共同利用・共同研究拠点」の認定に至った。「未来開拓力」に優れた人材を育成し、明治大学を「次代を拓き、世界へ発信する大学」へと飛躍させるべく、先頭に立ち、さらなる一步を踏み出していくであろう。

●新会員代表者紹介
よしむら のぼる
吉村 昇



東北公益文科大学学長

町田善則学長の退任に伴い、四月十二日付で吉村昇氏が第四代学長に就任した。

吉村新学長は昭和十八年新潟市生まれ。昭和四十四年秋田大学大学院電気工学専攻修士課程修了。昭和四十九年秋田大学鉱山学部電気工学科講師、助教を経て、昭和五十八年教授。昭和五十三年米国クラークソン工科大学客員研究員・教授を歴任。平成七年秋田大学鉱山学部長、平成十年初代工学資

源学部長、平成二十年から同大学学長を二期、六年間務めた。

学外では、大学コンソーシアムあきた理事長、日本素材物性学会会長、国立大学協会会長補佐などを歴任。河北文化賞、秋田県文化功労者表彰などを受賞した。

主たる研究分野は、専門である基礎電気工学はもちろん、歩行環境シミュレーションの特許取得により、全国交通安全対策に多大な貢献をした。

東北公益文科大学は、「地域、そして世界に有為な人材を庄内から」との理念で、平成十三年に山形県及び庄内市町村による公設民営方式で、山形県酒田市に設立された。

新学長は就任にあたり、秋田大学で積み重ねた四五十年間の経験を生かし、この庄内の地で生まれた東北公益文科大学の精神を受け継ぎ特色のある魅力的な大学をつくって次の世代につなげていく。この秋には吉村新学長のリーダーシップのもと、新大学改革プランを発表する予定。「公益塾」を公共の福祉に尽くす若者を育て、夢とロマンにあふれた大学にできるように全力を尽くす決意である。

●新会員代表者紹介 まつまえ よしあき 松前 義昭



東海大学理事長

松前達郎理事長・総長が総長職に専念するため理事長職を退任したことに伴い、五月三〇日付で松前義昭副理事長が理事長に就任した。

松前義昭新理事長は一九五六年東京都生まれ。一九七八年東海大学工学部応用物理学科卒業。工学博士。一九七八年日本電気株式会社入社。一九八七年東海大学入職。助手、講師、助教授を経て、二〇〇〇年教授に就任。二〇〇三年九州東海大学学長。二〇〇九年東海大学副学長。二〇一一年学校法人

東海大学副理事長。現在は、二〇〇八年から東海大学情報技術センター所長。二〇一二年学校法人東海大学副総長を兼任。タイ王国メジョー大学名誉博士、タイ王国モンクット王ラカパン工科大学名誉博士、ロシア連邦モスクワ国立大学名誉教授を受章。

専門分野は半導体工学、衛星リモートセンシング他。主な論文著書に『多結晶ダイヤモンド薄膜の電子デバイス化に関する研究』がある。

抱負を次のとおり述べている。

「教育研究機関には社会的意義があり、利益の追求ではない教育成果を重視した運営が重要であると考えます。社会に求められる人材を輩出していく能力を高めるために、教職員の意識改革等を図りたい。二〇一七年に迎える建学七五周年、そして一〇〇周年に向けて、さらなる成長戦略と中長期基本方針を策定し、すべての教育機関の状況を検証しながら、学生・生徒のキャンパスライフや学校生活がそれぞれに目指すものが得られるよう学びの場としての環境を可能なかぎり整えたい」
趣味は月一、二回のゴルフとサッカー観戦。

平成26年度 グランドテーマ

「教育立国の再構築を目指す私立大学の挑戦」

申込方法

インターネットでお申し込みください▶<http://www.shidairen.or.jp/>

参加無料・事前予約

私立大学フォーラムお問い合わせ事務局 TEL: 03-3262-8671

受付時間: 10:00~17:00 [月~金曜日(祝日除)]



福岡

10月18日(土)
13時~
福岡大学
「A棟 A201教室」

【テーマ】次代を担うたくましい若者を育成するために

・中竹竜二氏(公益財団法人日本ラグビーフットボール協会コーチングディレクター)(株)TEAM BOX代表取締役
・宮城治男氏(NPO法人ETIC代表理事)

・河野宏子氏(学校法人インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢理事)

【開催趣旨】グローバル化・ボータラシ化に代表されるように、社会のあり方そのものが変化する中、教育のあり方もその転換が迫られています。将来予測が困難な時代にあつて、自らの考えに基づき、行動することのできるたくましい若者を育てるためには、どのような教育改革が必要なのでしょう。次世代のリーダー育成に尽力されている方々から、これまでのさまざまな経験をご紹介いただき、次代を担う人材育成はいかにあるべきか、そのヒントを探ります。

●「第1回財務・人事担当理事者会議」開催

「これからの私立大学における教員人事政策のあり方——年俸制と評価制度をめぐって」（7月25日～26日・東京）を開催。教員に係る「評価制度と教員人事政策の連関」「評価結果と処遇の連関」「年俸制導入のあり方」を考える一助とすべく、七〇法人一〇〇名が参加した。

●「監事会議」開催

「監事監査機能のさらなる充実・強化のために」（8月20日～22日・京都）を開催。「監事の職能と責任のあり方」「三様監査のあり方」「教員監査のあり方」について、昨年見いだされた課題を踏まえ、引き続き協議し、六六法人八三名が参加した。

●「教学担当理事者会議」開催

「予測困難な時代」における教養教育の可能性（8月25日～26日・兵庫）を開催。大学設置基準の大綱化以降、揺らぎと問い直しの中にある教養教育のあり方について考える一助とすべく、四七法人四七名が参加した。

□JMOCの科目を受講した。悪戦苦闘の様子は、今号特集記事「やつてみたJMOC」をご覧ください。きたが、新たな知見に触れた充実感を得ることができた。

しかし、自分好みの科目を受講して知的な満足感を得た、というだけでは、私はいわば「コンテンツ」としての授業を「消費」しただけではないか、とも思う。もちろん、知的関心を満たすことを目的とした受講にも意味がないわけではないが、それだけでは新たに自分の考え方の軸を作る学び、知的関心の領域や深度が変わるような学びは難しい。

すべてが自由選択科目といっているJMOCと対比させて考えると、大学のカリキュラムの本質的な意義は、その自由さ、選択肢の豊富さにあるのではなく、ある特定の内容の理解、さらに応用を学生に強制することにある、どの領域を強制すれば卒業後も長く意味をもつのか、という選択に、大学の考え方が問われるのではない。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立教大学学生

部事務部長付 木村 健太

□大学全入時代、グローバル時代到来により、さまざまな指標で大学を序列化（特徴づけ）するランキング発表が行われている。このうち世界大学ランキングは、日本の大学が世界の中でどのようなランクにあるのか、毎年発表のたびにマスコミにも大きく取り上げられ、その順位の昇降が世間の話題となっている。

思えば、オリンピックやW杯をはじめワールドスポーツでは世界で何位かはつねに注目され、その延長線上で大学ランキングがとらえられているとも言える。しかしながら、競泳や陸上競技などのタイムや距離、重さで定量的に勝敗が明確に計れるものとは別に、フィギュアスケートに代表される審査員による評価点で判断される定性的な種目もあり、ときにそのジャッジが適正であったか議論が分かれることがある。

世界大学ランキングには多分に後者の要素が含まれ、その意味では、評価指標や順位決定に至る仕組みを知ることが重要となる。同時に、評価の意味すること、妥当性や限界を理解することが、安易で一面的な価値判断を避けるために不可欠であることも心しておきたい。

英国のレビュテーション管理やそのキーワードとして紹介されているパブリック・エンゲージメントは、大学のブランディングを内実化する新たな視点であり、日常の大学運営面でも活用されることが期待される。

（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立命館大学総務部広報課長 片岡 達彦）

□今号のインタビューは、日本を代表する画家として世界で活躍中の平松礼二氏にご登場いただいた。

作品に登場する花や木々をはじめ、たくさん自然あふれる平松氏のアトリエでの開催。掲載写真がモノクロになってしまいが残念である。

私大連盟公式 Facebook ページ (<http://www.facebook.com/shidaren>) QRコード・表紙裏を参照）では、次号の予告を兼ねて、いち早くインタビュー開催の様子を、写真を交えて配信している。もちろんカラー写真。冊子とは異なるもう一つの大学時報をお楽しみいただきたい。

また、私大連盟事務局には、愛知大学の記念式典の際にいただいた平松氏作「愛と知の讃歌」の版画が飾られていた。来局の際はぜひこちらをご覧ください。（日本私立大学連盟事務局 春名 貴明）



本誌は、WEBサイトにて、全文を無料公開しています。

詳細は、<http://www.shidairen.or.jp/activities/daigakujihou> へ

※バックナンバー（第344号、平成24年5月発行より）もご覧いただけます。

連盟WEBサイト

連盟公式Facebookページ

大学時報

GO

